



SERVICE Above Self

超我の奉仕

TANABE

District 2640 田辺ロータークラブ



ROTARY

Club Weekly Bulletin

2005-06年度
国際ローターテーマ

カール・ヴィルヘルム
ステンハマー R I 会長

四つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから
- (1) 真実かどうか
- (2) みんなに公平か
- (3) 好意と友情を深めるか
- (4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
 例会場 紀陽銀行三階ホール
 会長 村上 有司
 幹事 木村 頼文
 会報委員長 植田 英明
<http://tanabe-rc.com/>

承認 昭和28年3月2日
 事務所 田辺市栄町24 〒646-0048
 紀陽銀行田辺支店内
 TEL 0739-24-2002
 FAX 0739-26-0264
 mail tanaberc@mb.aikis.or.jp



「本宮大社八咫鳥」

司会者
村上有司会長

ソング
啼くな小鳩よ

ゲスト
 田辺市役所水処理対策課
 課長松本吉弘様 係長鈴木益男様
 古久保克己様(龍神クラブ会長予定者)
 古久保治一様(龍神クラブ会員予定者)

ヴィジター
坂本正人君(田辺東RC)

本日のプログラム 3/2

会員卓話
 堀田 博会員
 「塩との戦いについて」

次回のプログラム 3/9

雑誌委員会
 畑地 浩会員
 「雑誌の日」

出席報告

	会員数	欠席者	出席者	出席率
総数	88名	15名	73名	84.41%
出席計算会員	77名	12名	65名	
2月2日修正出席率				90.90%

メイクアップ

2月21日 廣本(田辺はまゆうRC)
 2月22日 大川(田辺東RC)

お祝い

会員誕生日 3/1 新井
 配偶者誕生日 2/23 川内美栄(潔)
 2/26 阪本佐和美(哲次)
 2/27 畑地幸子(浩)
 3/1 市木延子(栄之助)

ニコニコ箱

松本課長さん、ようこそ。近藤、玉置皆瀬さん卓話頑張って下さい。伊賀、中松竹本、竹内、長井、新井、大木、寒川、横田、野村富、植田英卓話よろしくお願ひします。皆瀬2月16日救急指定ポイント設置記念会式に多くの方々に御出席頂きありがとうございました。ゲスト、ヴィジターの皆様よくお越し下さいました。荷稲さん、お元気になられ復帰されおめでとうございます。村上古久保さん、ようこそ。小川救急ポイント設置セレモニーへ多数の御参加ありがとうございました。三前剛、森本念願の救急ポイントの設置が出来喜んでます。辻救急ポイント設置に参加しました。吉田透 S A A 委員会で市木さんにお世話になりました。伊賀、竹本、長井市木先生に大変お世話になりました。おじゃま虫でした。新井、中松皆様手土産ありがとうございました。市木荷稲様全快おめでとう。坪井、木村頼突然「多発性筋痛症」という病気になり約2ヶ月間休ませて頂きました。その間会長幹事様初め皆様方

ご心配をおかけしました。又、永井先生には大変お世話になりありがとうございました。荷稲先日稲田静雄さんにお世話になりました。笹野会報に一家族13人の写真が載りました。平成18年1月1日撮影。岡本第40回松下電工住設建材販売コンテストで和歌山地区で3年連続一位で表彰されました。御協力頂きました皆様に心から感謝を申し上げます。横田

お知らせ

会長報告

- ・本日は、この度設立予定の龍神クラブの設立にご尽力頂きました龍神の古久保克己さんと古久保治一さんがお見えです。
- ・2月16日中辺路にて救急指定ポイント設置セレモニーが無事執り行われました。
- ・田辺RC20周年記念事業の紀南文化会館前のモニュメントの製作者である建島覚造氏が亡くなりました。クラブより弔電を打ちました。



幹事報告

- ・ローターレートが3月より114円から118円に変わります。
- ・近隣クラブの会報届いています。回覧します。

委員会報告

- 社会奉仕委員会** 三前 剛委員長
 ・先週の救急指定ポイント設置セレモニーへご参加ありがとうございました。
- 職業奉仕委員会** 新井康司委員長
 ・3月9日の例会終了後、田辺消防署の見学を1時間程で予定しています。多数ご参加頂きますようお願いいたします。

プログラム

新会員卓話 皆瀬正夫会員
 私は、新庄町で水道業を営んでいます。那智勝浦でのI・Mで、環境問題(川)をテーマにした基調講演を聞いて、自分の仕事と一致し大変感動しました。又フレッシュ会員の集いに参加して、職業奉仕の話聞き、入会して



よかったですと思いました。パネリストの話の中に左会津川、右会津川の水処理の話が出てきました。本日は水処理のブ口田辺市水処理対策課課長 松本吉弘さん、係長鈴木益男さんより「汚水処理の現状と対策」の話をして頂きます。



「汚水処理の現状と対策について」

田辺市役所水処理対策課
課長 松本吉弘様
係長 鈴木益男様

今回、皆瀬正夫さんから依頼のあったテーマ「汚水処理の現状と汚水処理対策」について、ご説明させていただきます。

1. 汚水処理の現状

汚水処理施設には、各省庁様々な事業がございますが、代表的な事業を紹介させていただきます。

国土交通省の事業では、公共下水道事業と特定環境保全公共下水道事業がございます。

公共下水道事業は、公共用水域の水質保全、生活環境の改善を目的にしております。事業対象地域は都市計画区域内で、計画処理人口は、1万人以上となっております。

特定環境保全公共下水道事業は、自然公園区域内の水質保全、農山漁村の生活改善を目的にしております。事業対象地域の指定はございません。

計画処理人口は、千人から1万人程度で、千人以下でも実施可能となっております。

特定環境保全公共下水道事業は、田辺市では旧龍神村の龍神温泉周辺と旧本宮町の川湯温泉で整備されております。龍神温泉も川湯温泉も定住人口は1000人程度ですが、計画処理人口はいずれも5千人程度となっており、ほとんどが観光人口であります。供用人口は、2施設合わせて111人となっております。

次に農林水産省の事業ですが、農業集落排水事業、漁業集落排水事業、林業集落排水事業などがございます。

農業集落排水事業は、農業用水の水質保全、農村生活環境の改善等を目的に実施しており、事業対象地域は農業振興地域内の農業集落で、計画処理人口は、千人程度、受益戸数は概ね20戸以上となっております。

田辺市ではこの事業に多く取り組んでおりまして、11地区12施設が整備されており、芳養川流域で5施設、右会津川流域で2施設、左会津川流域、三栖方面で5施設となっております。これらの12施設の内、現在整備中の芳養地区を除く11施設を合わせた加入戸数は2,381戸で加入人口が8,919人となっております。また加入者に対するの接続状況であります。まもなく完成の芳養地区を除く11施設で16年度末現在、供用戸数が1,759戸で73.9%、供用人口が7,060人で79.2%となっております。

漁業集落排水事業は、漁村の生活環境の改善等を目的に実施しており、事業対象地域は漁港の背後集落、計画処理人口は、100人から5,000人となっております。

田辺市では、現在芳養地区で実施しておりまして、18年度に一部供用開始し、平成20年度完成を目指しております。加入戸数は650戸、加入人口は1,587人となっております。

林業集落排水事業は、山村地域の生活環境の改善等を目的に実施しており、事業対象地域は林野率80%以上の市町村等で、計画処理人口は、概ね1,000人以下、受益戸数が20戸以上となっております。

田辺市では、旧龍神村の大垣内地区と津越地区で整備されており、2施設あわせて加入戸数が43戸、加入人口が131人となっております。これに対して供用人口が87人で、16年度末の接続率は66.4%となっております。

つづきまして、浄化槽事業であります。地域排水処理施設と個別浄化槽事業がございます。

地域排水処理施設については、土地開発公社が宅地造成時に施設の一部として整備した汚水処理施設で、神島台、城山台、中芳養貝田地区がございます。3地区あわせて計画処理人口が4,150人、供用人口が約700人となっております。

次に環境省の事業で浄化槽設置整備事業であります。市では平成元年度より設置に対して補助をしております。16年度末、旧5市町村合わせて5,559基に補助しております。

この浄化槽設置整備事業と補助対象外の浄化槽を合わせた処理人口は約25,000人であり、地域排水処理施設と個別浄化槽を合わせた浄化槽の供用人口は約25,700人となっております。

これらのすべての事業を合わせた新田辺市の生活排水処理人口は、約33,000人であり、総人口85,637人にしめる割合は、38.5%となっております。

この数字は、県の平均、36.5%をわずかに上回っておりますが、全国平均、77.7%は大きく下回っております。

2. 今後の汚水処理対策

今後の汚水処理対策につきましては、現在新市全域をどのようにするか、検討を進めておりますが、やはりメインで考えなければならないのが、田辺市街地の公共下水道事業であります。特に背戸川に流れ込む汚水については何とかしなければならない状況であり、その手法としては公共下水道と個別浄化槽を検討しております。市街地では浄化槽を設置するスペースがない家屋が多く、浄化槽では限界がありますので、公共下水道以外に手法がないと考えられます。しかしながら公共下水道には建設費や維持管理費で莫大な経費を要するため、先進地の視察等を実施しながら検討しております。

建設費については、ある程度、財政計画ができますが、維持管理費の財政計画をたてるのが難しい状況です。完成後、区域の方々がどの程度接続して、どの程度使用料収入があるかは、予測でしかできません。

公共下水道は必要な施設であると思っておりますが、莫大な経費を要することから、事業着手にあたっては、慎重に更なる検討をしていかなければなりません。

次に広大な面積を持つ山間部の汚水処理についてですが、旧市町村で特定環境保全公共下水道や農業集落排水の構想が数カ所ございます。

近年、国の採択基準で浄化槽との経済比較が必要となり、事業の効率制が問われております。山間部においては、どうしても1件当たりの管渠延長が長くなり、浄化槽より建設費が割高となり、集合処理の採択が困難な状況であります。そのため、山間部においては浄化槽が主体となってくると考えられます。

